

# 糸

こいねが

# のり

いのりのかたち

2021年  
10月16日(土)

▼  
12月12日(日)

10:00 - 17:00  
最終入館 16:30

古来より人は祈りを奉げてきました。恵みを求めるものや繁栄を願うもの、鎮魂や平穏を祈るもの、はたまた現世利益を求めるものと「祈り」は多岐にわたり、祈る対象も自然・カミ・神仏と様々でした。それはこの和泉の地にかつて暮らした人々も同様でした。彼らが残した「祈り」に関連する資料は多岐にわたります。縄文時代の仮面や弥生時代の石棒、勾玉、奈良時代の土馬など「まつり」や「まじない」に関する資料。お経の一部が刻まれた須恵器や金属製の仏器を模倣した須恵器など仏教に関連する資料。なかでも「日本書紀」の仏教伝来関係記事に登場する「池辺直水田」以来崇仏を伝統とする池辺家（和泉市仏並町）は、平安時代の比叡山高僧覚超僧都が生まれ育ったと知られ、覚超自筆の「修善講式」（重要文化財）や鎌倉時代の写本をはじめとした様々な資料が代々伝えられています。

また、市史編さん事業に伴う古文書調査では、村々と寺社に係る資料のほか、大般若経、仏像など様々な文化財が発見されています。

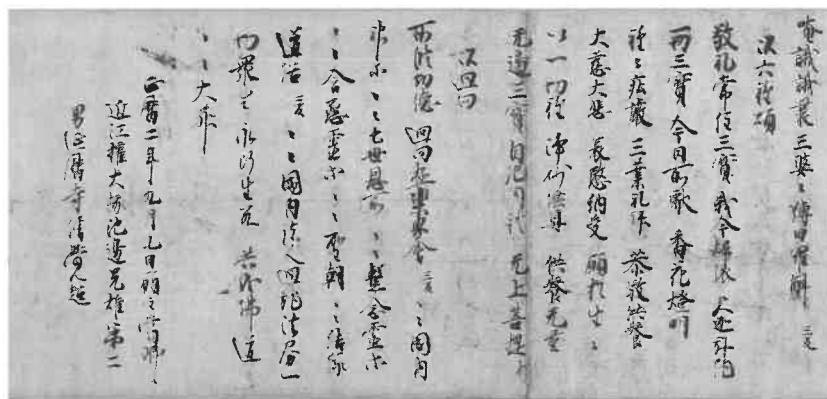
本展では、遺跡から出土した祭祀に関連する資料や、古墳の副葬品、古代寺院の瓦などの考古資料と、大般若経や中世文書、仏像、池辺家に伝わる資料など文化財・歴史資料の数々をあわせて展示いたします。

本展のタイトルである「希 こいねがう」とは「強く願ひ望むこと・切望すること」を意味します。和泉の地に暮らした人びとの切なる願いに触れてください。



市指定文化財  
銅造如来立像  
飛鳥時代  
天受院蔵

大般若経と経櫃 池辺家蔵  
大般若経 鎌倉時代  
経櫃 江戸時代



修善講式（写本）（尾部）鎌倉時代 池辺家蔵

### ■主な展示資料 展示資料の一部入替があります

- 土製仮面 縄文時代 仏並遺跡（レプリカ）（公財）大阪府文化財センター蔵
- 翡翠製勾玉 弥生時代 史跡池上曾根遺跡
- 銅造如来立像 飛鳥時代 天受院蔵 和泉市指定文化財
- 黒鳥村文書 平安時代～室町時代 大阪府指定文化財
- 大般若経・経櫃 平安時代～鎌倉時代 森光寺蔵 和泉市指定文化財
- 大般若経・経櫃 平安時代～南北朝時代 羅漢寺蔵 和泉市指定文化財
- 修善講式（写本）鎌倉時代 池辺家蔵
- 修善講式（写本）江戸時代 池辺家蔵
- 修善講式 平安時代（レプリカ）
- 礫石経 江戸時代 九鬼経塚 ほか

※記載のないものはすべて和泉市教育委員会所蔵

### 講演会の申込方法

- 往復ハガキに氏名、住所、電話番号、希望する講演会名を明記の上お送り下さい。
- いずみの国歴史館カウンターでもお申込みいただけます。その場合は返信用のハガキをご用意ください。
- ハガキ1枚につき1人。講演会ごとに申込が必要です。
- 応募が30人を超えた場合は抽選となります。
- 会場内ではマスクを着用のうえ、会話をご遠慮ください。

応募締め切り

11月講演会の締め切り：10/24（日）

12月講演会の締め切り：11/23（火・祝）

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては変更・中止する場合があります

### ■記念講演会 参加費無料

11月3日（水・祝）午後1時30分～

「覚超の希い—自筆『修善講式』を中心とする仏並池辺家の宗教文化遺産」

阿部泰郎氏（龍谷大学教授・名古屋大学客員教授）

12月5日（日）午後1時30分～

「万町で見つかった飛鳥時代のほとけさま」

田中健一氏（文化庁文化財第一課 文化財調査官（彫刻部門））

定員30人 事前申込制 ※詳細は左記申込方法をご確認ください  
会場はまなびのプラザ（いずみの国歴史館）会議室

## 和泉市いずみの国歴史館

〒594-1152 和泉市まなび野2番4（まなびのプラザ内）

TEL/FAX 0725-53-0802

開館時間 10:00～17:00（最終入館16:30）

休館日 月曜日（祝日は開館）・祝日の翌日（土日は開館）

展示入替期間・年末年始

### <交通>

泉北高速鉄道泉中央駅から徒歩20分（桃山学院大学に向かってください）

和泉中央駅から南海バス「美術館前」「松尾寺」行き乗車「緑ヶ丘団地」下車徒歩5分

南海本線泉大津駅から南海バス「春木川」「若樫」行き乗車「内田上」下車徒歩7分

■和泉中央駅から徒歩でお越しの際は、桃山学院大学前の吊り橋を渡ってすぐ、大学北門の手前を右折して、道なりに進んでください。  
（足元に和泉市久保惣記念美術館の道順案内があるので、途中までその標識にしたがってください）

■車でお越しの際は、桃山学院大学正門に入り、坂道を上りきった右手に無料駐車場（宮ノ上公園駐車場・30台）、左手にいずみの国歴史館（まなびのプラザ）があります。

